

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

項目	前回（3年4月判断）	今回（3年7月判断）	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	→

（注）令和3年7月判断は、前回4月判断以降、足下（7月末）の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、持ち直しに向けた動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊など観光面が依然として厳しい状況にあるなど、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、電子部品・デバイスや汎用・生産用・業務用機械を中心に、持ち直しつつある。雇用情勢は、感染症の影響がみられるものの、下げ止まりつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（3年4月判断）	今回（3年7月判断）	前回比較
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	→
生産活動	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に底堅さがみられるものの、弱い動きとなっている	新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、下げ止まりつつある	↗
設備投資	2年度は減少見込み	3年度は増加見込み	↗
企業収益	2年度は減益見込み	3年度は増益見込み	↗
住宅建設	弱含んでいる	弱含んでいる	→

【先行き】

先行きについては、感染拡大の防止策を講じ、ワクチン接種を促進するなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、厳しい状況から持ち直しに向かうことが期待される。ただし、感染の動向が内外経済に与える影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「新型コロナウイルス感染症の影響により、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

百貨店・スーパー販売は、食料品が堅調であることや来店客数の戻りがみられることから緩やかに持ち直しつつある。コンビニエンスストア販売は、行楽需要の減少などから弱い動きとなっている。ドラッグストア販売は、衛生用品や食料品が堅調である。ホームセンター販売は、DIY関連商品や園芸用品が堅調である。家電大型専門店販売は、買い替え需要が継続しており堅調である。乗用車の新車販売は、供給面の影響により、弱含んでいる。宿泊は、厳しい状況が続いている。

(主なヒアリング結果)

- GW以降大きく来店客数が落ち込んだが、感染の落ち着きとともに徐々に回復している。衣料品の不調は続いており、旅行に行けないためか高額商品の需要が高い。(百貨店・スーパー)
- 食料品は引き続き巣ごもり需要がみられ、冷凍食品、生鮮食品、総菜やギフトなど全体的に好調。衣料品は、昨年と比べると学校行事やイベントが開催されたことにより多少動きがみられたが、例年よりも低い水準である。(百貨店・スーパー)
- 冷凍食品、生鮮食品、酒などの需要は引き続き堅調であるが、イベント等の自粛もあり県外客の需要は回復していない(コンビニエンスストア)
- 昨年は定額給付金が支給されたこともあって、足下では前年を下回るものの、巣ごもり需要を背景に、大型家電の買い替えは堅調に推移している。(家電大型専門店)
- 契約状況は堅調だが、半導体不足の影響により各メーカーの生産が滞っていることで納車の遅れが生じており、受注残が積み重なっている。(自動車業界団体)
- 外出自粛要請の影響により、当地区の宿泊稼働率は低水準である。予約が入っていない平日は休業し、週末のみ稼働している施設もある。(宿泊施設業界団体)
- 酒類の提供自粛要請期間は、接待を伴う飲食店や居酒屋のほとんどが休業していた。酒類の提供が可能になっても、売上は感染拡大前の2割程度までしか戻っていない。(飲食業界団体)

■ 生産活動 「持ち直しつつある」

食料品等は、横ばいの状況にある。電子部品・デバイスは、車載向け部品を中心に好調に推移している。化学・石油製品は、自動車向け製品に持ち直しの動きがみられる。汎用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置が好調である。輸送機械は、自動車及び同部品の一部に半導体不足の影響がみられるものの、持ち直している。

- 家飲み需要により、家庭用の焼酎パック製品などは堅調に推移しているものの、飲食店の時短営業やホテルの休業等に伴い業務用の減少傾向は続いている。(食料品等)
- 感染症の影響で落ち込んでいた車載向け半導体関連の受注が回復しているなか、顧客からの強い引き合いにより受託生産も急拡大していることから、工場全体でフル稼働となっている。(電子部品・デバイス)
- 海外の自動車市場の回復やEVの需要拡大を背景に、自動車向け化学製品を増産しており、フル稼働となっている。(化学・石油製品)
- 情報通信技術の進展に加え、5G対応スマートフォンやデータセンター等向けの先端半導体を中心とした旺盛な需要により、引き続き国内外向け半導体製造装置の受注が好調である。(汎用・生産用・業務用機械)
- 主力商品の生産が好調であるなど工場全体の生産量は増加しているものの、半導体不足の影響により一部車種で減産の影響が出ている。(輸送機械)

■ 雇用情勢 「新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、下げ止まりつつある」

感染症の影響がみられるなか、有効求人倍率は緩やかに上昇している。新規求人数は、飲食店等では前年を下回っているものの、医療・福祉、職業紹介・労働者派遣業、建設業を中心に前年を上回っている。

- 感染症の影響により宿泊業や飲食サービス業を中心に引き続き厳しい状況となっているなか、医療・福祉、職業紹介・労働者派遣業、建設業では、慢性的な人手不足や電子部品需要の高まりなどを背景に求人数が増加している。(公的機関)
- 施工管理等の資格を持った業務経験豊かな人材が不足しており、受注できないことがある。(建設業)

■ 設備投資 「3年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年4-6月期

- 製造業では、食料品製造業などで減少見込みとなっているものの、情報通信機械器具製造業などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、宿泊業、飲食サービス業などで減少見込みとなっているものの、農林水産業などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。

- スマートフォン向け電子部品の増産に向けた新工場増設に伴う開発ラインの整備や生産設備拡充。(情報通信機械器具製造業)
- 感染症の影響で前年度に実施できなかった維持更新と生産力強化、省力化投資を行う。(農林水産業)

■ 企業収益 「3年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年4-6月期

- 製造業では、食料品製造業などで減益見込みとなっているものの、生産用機械器具製造業などで増益見込みとなっており、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、農林水産業などで減益見込みとなっているものの、宿泊業、飲食サービス業などで黒字転化見込みとなっており、全体では増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超幅が縮小」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」3年4-6月期

- 企業の景況判断BSIは、前期(3年1-3月期)に比べ、全産業では「下降」超幅が縮小している。なお、先行きについては、3年7-9月期は「上昇」超に転じ、3年10-12月期は「上昇」超幅が拡大する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「弱含んでいる」

- 新設住宅着工戸数をみると、前年を下回っている。

■ 公共事業

- 公共工事請負金額(3年4-6月累計)をみると、前年度並みとなっている。

■ 農業

- 野菜の農協共販量をみると、4月は前年を上回り、5月は前年を下回っている。野菜の販売単価をみると、4月は前年を下回り、5月は前年を上回っている。
- 牛のと畜頭数をみると、4月、5月は前年を上回っている。牛の枝肉卸売価格をみると、4月、5月は前年を上回っている。
- 豚のと畜頭数をみると、4月は前年を下回り、5月は前年を上回っている。豚の枝肉卸売価格をみると、4月、5月は前年を下回っている。

■ 倒産

- 企業倒産(3年4-6月期)は、件数、負債金額ともに前年を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回(3年4月判断)	今回(3年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
熊本県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	➡	個人消費は、持ち直しに向けた動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊など観光面が依然として厳しい状況にあるなど、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、汎用・生産用機械や電子部品・デバイスを中心に、持ち直しつつある。雇用情勢は、感染症の影響がみられるものの、下げ止まりつつある。
大分県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	➡	個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光関連が厳しい状況となっているなど、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、緩やかに持ち直しつつあるほか、雇用情勢は、感染症の影響がみられるものの、下げ止まりつつある。
宮崎県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	➡	個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、百貨店・スーパー販売で低調となっているほか、レジャー・観光施設の入場者数及び宿泊者数は、客足の戻りが鈍いことから、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、化学工業や食料品工業を中心に緩やかに持ち直しつつあるほか、雇用情勢は、感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
鹿児島県	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直しつつある	➡	個人消費は、宿泊・観光面で厳しい状況が続いている一方、引き続き集ごり需要による動きがみられることなどから、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、感染症の影響がみられるものの、下げ止まりつつある。